

令和3年度三重県立飯野高等学校定時制学校マネジメントシート

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○地域から愛され信頼される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自分と他者の違いを認め、自分を大切にし、他者を思いやることのできる生徒 ○基礎基本の力を身に着け、信頼される社会人として地域に貢献できる生徒 ○あいさつをはじめ、他者と適切なコミュニケーションがとれる生徒
	ありたい 教職員像	○生徒一人ひとりが自らの目標に向かって真剣に取り組むことができるよう、生徒のよき理解者となり、適切なサポートができる教職員 ○学習指導や生徒指導などの指導力向上をめざして、ともに学びあい学び続ける教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>【生徒】 確かな学力の確立と進路実現</p> <p>【保護者】 学校からの丁寧な情報発信</p> <p>【地域】 地域に貢献できる人材育成</p>				
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<table border="1"> <thead> <tr> <th>連携する相手からの要望・期待</th> <th>連携する相手への要望・期待</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 〈中学校〉 不登校経験者や外国人生徒等、多様な生徒の受け入れ 〈企業等〉 社会人としての基礎力の養成 </td> <td> 〈中学校〉 学校生活に適應できる生徒の育成及び情報共有 〈企業等〉 在学中の雇用と卒業時の正規雇用 </td> </tr> </tbody> </table>	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待	〈中学校〉 不登校経験者や外国人生徒等、多様な生徒の受け入れ 〈企業等〉 社会人としての基礎力の養成	〈中学校〉 学校生活に適應できる生徒の育成及び情報共有 〈企業等〉 在学中の雇用と卒業時の正規雇用
連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待				
〈中学校〉 不登校経験者や外国人生徒等、多様な生徒の受け入れ 〈企業等〉 社会人としての基礎力の養成	〈中学校〉 学校生活に適應できる生徒の育成及び情報共有 〈企業等〉 在学中の雇用と卒業時の正規雇用				
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○飯野高校は個性をもった生徒集団であり、個人の能力を将来に生かせることができる。</p> <p>○在校生から中学生に向けて飯野高校のよさを発信する機会を増やすとよい。</p> <p>○人権教育、中でも多文化共生教育に力を入れているのが数字で表れている。</p> <p>○保護者の信頼度、満足度が高く、地域の中学校生徒数が減少する中で、志願者を維持している。</p>				
(4) 現状と課題	<p>教育活動</p> <p>地域の定時制高校の拠点として、働きながら学びたい生徒、不登校経験のある生徒、学び直しをしたい生徒等、本校に対する多様な期待をもって入学してきた生徒に対して、一人ひとりの状況に応じた確かな教育をおこなっている。こうした丁寧できめ細やかな教育を通じて、成果、実績を積み重ねてきており、地域からの期待、信頼は厚い。</p> <p>一方、一部の生徒には、家庭の事情により学校を休みがちになったり、進路変更を余儀なくされる生徒がいる。こうしたことから、関係機関及びSSW等の専門員と連携しながら、当該生徒が学校生活を継続できるよう支援する必要がある。</p>				
	<p>学校運営等</p> <p>一人ひとりの生徒の課題に応じて、教職員がきめ細やかな対応ができています。教職員数が少ないため、教職員間の情報共有が進む一方、校務分掌においては、一人で複数の分掌を担当するなど、独自の工夫が必要である。</p>				

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none">① 授業規律や出席を重んじるとともに、学習意欲を向上させ、安心して登校し落ち着いて学習に取り組むことができるよう生活・学習の両面から支援し、学力の向上を図る。② 自他を尊重する人権意識と自己有用感を高め人間関係形成能力を育成する。③ 進路保障の充実を図る。特に外国人生徒の進路保障に向けて一層強化する。④ 特別支援体制の充実や個に応じた生徒指導を推進するために外部との連携を取りながら効果的な支援体制を構築する。⑤ 地域教育力の導入及び生徒が地域や小中学生と交流を行うなど、地域に目を向けさせ、地域に貢献できる人材を育成する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none">① 生徒や保護者にとって安心安全な教育環境を整えるために、適切な情報管理と生徒・保護者のニーズの把握を行う。② 生徒、保護者、地域へ教育内容を積極的に情報発信して、定時制生徒への理解と協力を深める。③ 生徒の多様なニーズに応えるため、JSLカリキュラムや特別支援教育に関する研修等を推進して、教職員の専門性や指導力の向上を図る。④ 生徒の学習意欲や学力向上のために相互参観や研修を行い、授業力向上を推進する。⑤ 教職員が充実した業務を行うため、総勤務時間の縮減や職場の環境整備に取り組む。

<p>② 自他を尊重する人権意識と自己有用感を高め人間関係形成能力の育成 (人権教育) (生徒指導)</p>	<p>(1) 自他を尊重する人権意識や自己有用感に裏付けられた自尊心の涵養 ○活動指標 ・面談による個人相談を年5回実施 ○成果指標 ・いじめ認知件数3件以下</p> <p>(2) 命を大切にす教育の充実 ○活動指標 ・アンガーマネジメントやセルフコントロールトレーニング・人権を大切にすることをテーマにした講演会やワークショップを前期、後期各 1 回以上実施する。 ○成果指標 ・生徒アンケート安心・安全満足度85%以上</p> <p>(3) 人間関係形成能力の育成 ○活動指標 ・なかまづくりを目的とした学校行事を年4回実施 ○成果指標 ・アンケート調査における満足度80%以上</p>	<p>(1) 5・7月に個人面談、9・10月に三者面談を実施。 いじめの認知件数2件</p> <p>(2) 人権講演会2回 人権学習3回実施</p> <p>(3) コロナウイルス感染拡大防止の観点から体育祭・文化祭を中止。生徒会役員が積極的に取り組んでいることから参加生徒も増えている。</p>	
<p>③ 進路保障の充実 (進路指導)</p>	<p>(1) 個々の生徒のニーズに応じた求人開拓 ○活動指標 ・企業訪問および企業説明会での対応企業数70社 ○成果指標 ・学校斡旋による就職希望者全員の正規採用の実現 ・卒業予定者の就職希望の求人充足</p> <p>(2) 学校斡旋就職者の定着 ○活動指標 ・追跡調査を定期的実施し、早期離職者などを把握</p> <p>(3) 「総合的な学習(探究)の時間」での実施を主とした進路指導のプログラム化とリアルな職業観・勤労観を育成するキャリア教育(社会人基礎講座)を計画的に実施する。 ○活動指標 ・キャリア教育・社会人基礎知識の指導講座、体験型学習等を年間 5回以上実施 ○成果指標 ・振り返り(アンケート)を行ない、生徒の意思を汲み取る。</p> <p>(4) 進学希望者の進路実現ための取組 ○活動指標 ・進学希望者の進路実現のための受験科目の教科による個別指導の実施 ○成果指標 ・進学希望者の合格率100%</p>	<p>(1) 対応企業 52社</p> <p>(2) 学校斡旋による内定者 7名</p> <p>(3) 進路指導関連の総合学習指導を3回実施した。</p> <p>(4) 進学は AO 入試で専門学校1名合格。 合格率100%</p>	◎
<p>④ 特別支援体制の充実、個に応じた生徒指導を推進するために、外部との連携や効果的な支援体制の構築</p>	<p>(1) 学校の構造化を推進し、教育環境を整えながら合理的配慮の提供方法を検討する。 ○活動指標 ・授業担当者会議、ケース会議の開催 ○成果指標 ・支援を要する生徒の「個別の教育指導計画」100%作成</p> <p>(2) 関係機関と連携した生徒指導の充実 ○活動指標 ・SSWや関係機関との連携による個々の生徒に応じた適切な生徒指導、支援を行う。 ○成果指標 ・生徒指導、支援を必要とされる生徒の減少</p>	<p>(1)・授業担当者会議 ケース会議ともに開催済み ・「個別の教育指導計画」100%作成</p> <p>(2) 関係機関、SSWとの連携、特別支援コーディネーター、養護教諭との情報共</p>	◎

(特別支援教育) (生徒指導)		有を密に実施。生徒に応じた対応をしている。	
⑤ 地域に貢献できる人材を育成するために、外部教育力の導入及び生徒による地域交流 (地域連携)	(1)地域人材を活用した講演会やワークショップの実施 ○活動指標 ・講演会等の月間1回以上の実施 ○成果指標 ・振り返り(アンケート)を行ない、生徒の意思を汲み取る。 (2)地域奉仕活動 ○活動指標 ・地域清掃奉仕活動を年間1回実施 ○成果指標 ・在学生徒の80%以上が参加	(1)コロナ感染防止対策の観点から講演会はすべて県内(地域)の講師に依頼。 (2)地域奉仕活動はコロナ禍のため中止	◎

改善課題

- ・毎日の登校指導、校内の巡視における教員からの声かけや担任による個人面談等の充実を図ることで問題行動の未然防止に一定の成果をあげている。今後も引き続き丁寧できめ細かい指導を実践していく。
- ・SNS等のインターネット上の誹謗中傷や仲間外しなど、問題行動が表面化しにくいために認知が難しいケースが増えている。このような場合には、関係機関や警察とも連携していく体制づくりが必要になる。
- ・経済的に厳しい家庭や不登校を経験した生徒が多く、学びが定着しにくい場合が多い。そのため担任との個人面談の機会を増やし、発達障がい支援員・SSW・SC等とも連携して学びの継続を図るような働きかけを積極的に実施し、退学率の減少に向けた取組を推進する。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
① 教職員や生徒、保護者にとって安心安全な教育環境の整備・適切な情報管理 生徒・保護者のニーズの把握、生徒・保護者・地域への情報提供 (情報管理) (サービス遵守)	(1)生徒・保護者のニーズの把握 ○活動指標 ・生徒・保護者アンケートの実施 年間1回 ○成果指標 ・アンケート結果から生徒・保護者の意思を汲み取る。 (2)生徒・保護者・地域への携帯メール、学校HPでの情報提供 ○活動指標 ・年間15回以上実施 ○成果指標 ・携帯メール、学校HPの利用率80%以上 (3)学校情報や個人情報の適切な管理・サービス遵守のための取組 ○活動指標 ・情報管理状況点検 年間1回実施 ・コンプライアンス研修 年間1回実施 ○成果指標 ・点検結果等 (4)安全点検の実施 ○活動指標 ・年間3~4回以上の実施。 ・外部団体等との連携による安全確認の実施 ○成果指標 ・点検結果等	(1)生徒・保護者アンケート1回実施と職員会議における課題の共有 (2)・マチコミメールによる生徒・保護者連絡30回実施(1月末) ・携帯メール等の利用率81.4% (3)・個人情報管理調査4月実施 ・コンプライアンス研修10月実施 (4)7月・12月・2月に安全点検実施	※

<p>② JSLカリキュラムや特別支援教育等に関する研修等の推進、資質向上 (研修推進)</p>	<p>(1)教職員研修の充実 ○活動指標 ・「授業力向上のための研修」、「外国人生徒や特別な支援の必要な生徒を指導する力を向上させるための研修」、「命を大切に教育を推進するためにアンガーマネジメントやセルフコントロールトレーニング等に関する研修」等年間 3回以上実施 ○成果指標 ・職員アンケート研修満足度85%以上</p>	<p>(1)授業担当者会議、教職員人権研修会、コンプライアンス研修、ICT研修等を実施。 ・研修満足度 90%</p>	<p>◎</p>
<p>③ 生徒の学習意欲や学力の向上のための、相互参観や研修等教員の授業力向上の推進 (授業改善)</p>	<p>(1)授業改善・教科指導力の向上のための取組 ○活動指標 ・教員の相互参観による「授業見学シート」を活用した相互研修及びアクティブ・ラーニング等授業研修の実施 ○成果指標 ・職員アンケート研修満足度85%以上</p>	<p>(1) 5月と10月に「授業公開」の期間を設定し、教員同士が相互研鑽できる機会をつくっている。</p>	<p>◎</p>
<p>④ 総勤務時間の縮減や執務環境整備 (職員健康管理) (職場環境改善)</p>	<p>(1) 総勤務時間の縮減と環境整備、安心、安全な職場環境づくり ○活動指標 ・定時退校日年間15日の達成率 90%以上 ・1時間以内に終了した会議の割合90%以上 ○成果指標 ・総勤務時間の縮減の推進 ・1人当たりの月平均時間外労働 5時間以下 ・年間360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・1人当たりの年間休暇取得日数 25日以上 ・学校閉校日の設定(8月・12月) 年4日 (2) 執務環境整備と安全、安心な職場環境づくり ○活動指標 ・パワーハラスメントをはじめとする様々なハラスメントに対する指針の策定及び未然防止対策</p>	<p>・93.3%(13日実施 1月末) ・100%(31回実施 1月末) ・2.1時間 (4月～12月) ・0人 ・0人 ・1人平均23.0日 (1月～12月) ・4回実施(8月12・13・16日, 12月28日)</p>	<p>※ ※ ◎ ※</p>

改善課題

- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえて、10月の「学校説明会」を中止し、個別の学校見学と飯野高定時制HPによる情報公開のみとしたが、これによって入学希望の中学生や保護者が情報不足や不満を感じるがあったのか、今後検証していく必要がある。また、こうした状況では学校HPや学校連絡メール等の情報発信が極めて重要になるため、より一層の充実を図る必要がある
- ・昨年度構築したオンラインシステムを活用し、平素の教育活動において会議や研修等をリアルタイムで遠隔実施できるようになったが、各教室の設定等を情報担当者に任せきりにするのではなく、すべての教員が使いこなせるようスキルアップに努める必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じて、学校行事の大幅な見直しを実施したが、これによって無くてはならない行事なのか、簡略化・簡素化しても実施できるものかどうかについて再認識することができた。これをコロナ収束後の行事計画に反映させ、より充実した学校行事の実施に取り組む。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none">・学校のHPだけでなく、ケーブルTV等の様々なメディアも活用して学校の特色を県民や鈴鹿市民に発信していけば、中学生の進路希望の選択肢が広がるのではないかと。・自分の将来について、明確な夢や希望を描くことができない生徒も多いが、飯野高校はそんな生徒一人ひとりの個性や良い部分を伸ばすことができていると思っている。きめ細かいキャリア教育を今後も続けてもらいたい。・コロナ禍で多くの学校行事が中止になっていることが非常に残念である。青春という貴重な時間が奪われた世代だと思う。高校生活の思い出として外せないものは何かを考えてこれからの学校行事を精選していく必要があるのではないかと。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ol style="list-style-type: none">①授業や学校行事、日常の生徒指導等の教育活動だけでなく、学校生活全般をとおして規範意識や自立した社会生活を送るための力を育成する。②生徒の学習意欲を向上させるため、ICT機器などを活用した分かりやすい授業の実現と一人ひとりに向き合ったきめ細かい指導を行うことで退学率の減少に取り組む。③多様な生徒が自らの進路を見すえた進路選択ができるように、卒業生や地域の人材等の外部教育力を取り入れたキャリア教育を推進する
学校運営についての改善策	<ol style="list-style-type: none">①中学生や地域に向けて、飯野高校定時制の特色をより効果的に発信していくツールやPR方法について検討する。②授業力の向上、人権教育、ICT活用指導力等、教員のスキルアップのための校内研修や職場のOJTのさらなる充実に取り組む。③生徒の学校生活における満足度について、アンケート等の実施だけでなく、個人面談や教育相談等、日常の学校生活における教員との関わりをとおして生徒の理解と把握に努める。